

人の役に立つ喜び

～感謝・共感したとき、子どもは自ら動きたくなる～

普段から自分の働き（お手伝いなど）が親の役に立っていることを知っている子どもは、外でも人の役に立とうとします。それが社会的なマナーだと思います。

電車やバスで席をゆずる。困っている人に手を貸す。学校で誰かがやらなければならないことを進んでやる。「やりなさい」と言われなくても子どもは気付き、子どもの中から自然にやる気がわいてきます。もちろん、親がその手本を見せる事が求められますが・・・。

上越市教育委員会に勤務していたときに、ある男の子のお母さんから聞いた話です。

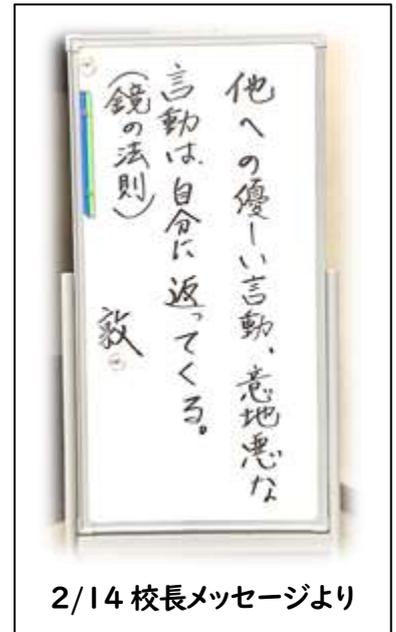
家ではまったく親の手伝いなどしない子なのに、学校の先生から、クラス行事のときなど、率先して準備などの目立たないことをやってくれると誉められました。お母さんは、家では何もしないのに、なぜ学校ではそんなことができるのだろうと首をかしげます。「手伝って」と声をかけても、そんなときにかぎって「宿題があるから」「今、忙しいから」などと取り合ってくれないのです。「まったく外面のいいやつだ」くらいに思ったようです。

学校でいろいろな仕事をする原因は先生でした。担任の先生は、何かにつけ子どもたち一人一人に感謝し、喜びを伝える人だったのです。それがわかって、親も家庭で同じ事を始めたそうです。

子どもが最初に出会うコーチは親です。親にしか教えられないことがたくさんあります。親として、ぜひベストを尽くしていただきたいと私は思っています。同時に学校の先生や地域の皆様も、子どもに大きな影響を与える可能性のある人たちです。その全ての人たちに、今一度、自分の気持ちを言葉で表すことの重要性を確認していきたいと思います。

子育てのとき、私たち親は、子どもにしてほしいことやすべきことを、指示、命令で伝えることが多いようです。こどもをきちんとふるまわせることに忙しく、親自身がどう思うか、どう感じるかを伝えることは少ないようです。ところが、子どもが共鳴し、共感して、自ら動き（働き）たくなるのは、気持ちを聞かされたときなのです。

私にも次のような記憶があります。私の祖母は、私が子どもだった頃、畑で野菜を作っていました。夏になると時々、祖母といとこと私の3人で畑に行って、畑仕事をしました。草取りが終わると、次は苗に水をやって、その次は・・・。祖母はどんどん用事を言いつけます。近所の子たちは遊んでいるのに、どうして私たちだけ畑で働かなければならないのだろうと思ったものです。



祖母は「こんなことぐらいできなくては、大きくなって何もできないよ」と言います。そう言われるたび、「何にもできなくてもいい・・・」などと思ったものです。

しかし、祖母はときどき、つくづくこんなことを言うのです。

「手伝ってくれて本当にありがとう。あんたたちが手伝ってくれるおかげで、ばあさんは助かっている。」

すると私は、次の用を言われる前にどんどん仕事を片付けたものです。祖母の役に立ちたかったのです。祖母が喜んでくれるのは、私にとって心躍る出来事でした。祖母が亡くなって、26年が経ちますが、今でもそのときの気持ちは私の心に刻まれています。

同じ事をやらせるとき、心躍る思いで喜んでやらせるのと、いやいややらせるのとどちらがいいでしょう。答えは明白ですね。心躍る思いで喜んでやらせるには、親や先生が自分の気持ちを子どもと分かち合うことです。感謝や共感の中でだけ、子どもに大切なことを教えることができるのです。日頃から子どもたちが心躍る気持ちになるような声かけを1つでもいいのでしてあげてほしいと思っています。



第2回生徒総会 ～41周年目、新時代へのバトンパス～

3年生を中心として今年度運営してきた生徒会活動を振り返る「第2回生徒総会」が行われ、今年1年の活動成果についての報告と質疑・承認が行われました。

今年度、特に強調して取り組んだ活動は「生徒会アワー」、「全校レク」、「地域とのかかわり」、「いじめ見逃しゼロスクール集会」、「行事メッセージ」、「生徒会アンケート」の6項目です。これらすべてに、仲間を尊重し思いやることや、協力して全校がまとまることが意図されています。まさに、生徒会スローガン「尊究協調」の実現に向け積極的に活動した1年間でした。

総会終盤では、創立40周年記念合唱曲「七色模様」をこれからも歌い継いでいくことが確認されました。40周年目の節目に大きな成果を残した頸城中生徒会。41年目の飛躍に向け、先輩方からのバトンを受け継ぎ、また一歩前進してくれることを願っています。



頸城中生徒の活躍

◆文芸部 第21回上越地区小中学生俳句大会

特選 1年 鈴木 朱花 さん 「ひとはけを加えたくなる秋の空」

入選 3年 池田 咲月 さん 「夕暮れに咲くアマリリス影のびて」

◆第40回上国連書写技能検定書き初め会

一席 1年 竹谷 美華 さん

三席 1年 森永 爽那 さん

がんばりましたね!



令和元年度後期学校評価の結果から（数字は肯定的回答の割合です）

※網掛けは前期から3%以上の上昇があった項目

▲は前期から下落が大きい項目

R1後期学校評価<生徒アンケートより>

		全校生徒		1年生		2年生		3年生		
R1後期 頸城中生徒の様子		R1後期	R1前期	R1後期	R1前期	R1後期	R1前期	R1後期	R1前期	
学 力 づ く り	1	始業前に授業準備を行い、チャイムスタートを守っている。	98.7	99.1	100.0	98.6	96.0	98.7	100.0	100.0
	2	授業中は、私語なく、しっかり話を聴いている。	91.5	89.8	91.9	86.5	85.6	87.2	97.3	95.9
	3	授業に忘れ物をしていない。	96.0	95.6	97.3	91.9	96.0	97.4	94.5	97.3
	4	授業での挨拶や返事を元気にしている。	84.7	85.4	93.3	91.8	80.0	84.7	80.8	79.4
	5	提出物を期限までに確実に提出している。	▲88.0	93.7	88.0	90.5	85.6	94.9	90.4	95.9
	6	授業のねらいや学習内容がよくわかる。	88.4	91.1	91.8	96	85.5	91.0	87.7	86.3
	7	授業の話し合い活動や発表場面では、自分の考えをもち、進んで他の人に伝えた。	▲80.7	87.1	86.5	86.4	77.6	93.6	78.1	80.8
	8	発表場面では、相手にわかりやすく説明するよう努力した。	85.6	86.7	86.5	87.8	86.8	88.5	83.6	83.6
	9	授業の話し合い活動を通して、自分の考えを深めることができた。	▲87.0	90.7	87.8	95.9	86.8	92.3	86.3	83.6
	10	テストに向けて計画的に取り組んだ。	85.7	82.6	83.8	85.1	84.2	85.9	89.0	76.8
	11	1日(学年+6)×10分以上の家庭学習を行った。	▲51.8	64.0	53.3	71.6	36.9	60.2	65.7	60.3
絆 づ く り	12	法律や学校のルールを守って生活している。	97.8	97.3	98.7	94.6	97.4	98.7	97.3	98.7
	13	いじめをしない、許さない集団づくりに努力している。	98.7	98.7	100.0	98.6	98.7	100.0	97.3	97.2
	14	係や当番の仕事をしっかり行い、仲間の役に立っている。	96.9	98.6	100.0	100	96.1	98.7	94.5	97.3
	15	周囲の人の意見に流されず、自分の考えで行動している。	94.6	93.4	97.3	94.6	94.7	96.1	91.8	89.1
	16	地域行事やクリーン活動に積極的に参加し、地域に貢献している。	80.6	82.7	80.8	89.2	81.5	78.2	79.5	80.9
	17	地域や校内でさわやかなあいさつを進んで行っている。	86.5	88.8	89.2	90.5	82.9	91.1	87.7	84.9
	18	今の自分の学校生活は充実している。	95.5	91.6	94.5	91.9	98.6	93.6	93.1	89.1
体 づ く り	19	メディア時間を1日60分以内にすることができた。	43.4	41.9	49.4	55.4	44.7	43.6	35.6	26.4
	20	夜11時までには就寝することができた。	65.2	62.6	82.7	74.3	65.8	66.7	46.6	46.6
	21	「生活チャレンジ週間」で作成した生活リズムで生活することができた。	70.9	70.2	82.7	77	67.1	78.2	62.5	54.8

		全校保護者		1年生保護者		2年生保護者		3年生保護者		
R1後期 保護者アンケートから		R1後期	R1前期	R1後期	R1前期	R1後期	R1前期	R1後期	R1前期	
学 力 づ く り	1	決まった時間に家庭学習ができるよう、環境を整えている。	72.9	71.5	67.6	72.0	72.6	68.0	78.6	75.0
	2	テスト前や長期休業中は学習計画表を点検し、テスト結果を親子で振り返っている。	61.8	57.6	70.3	68.0	53.4	48.8	61.4	56.3
	3	進路について親子で話し合い、学習に目標をもたせるようにしている。	82.0	78.2	67.6	66.6	87.7	78.2	91.4	90.2
絆 づ く り	4	法律や学校のルール、家庭のルールを確認し、家庭でも守らせている。	94.9	93.7	94.6	96.0	94.5	91.0	95.7	94.5
	5	いじめや暴力について親子で話題にし、いじめを許さない意識を高めている。	96.4	95.5	98.7	97.4	98.6	96.2	91.4	93.0
	6	提出期限に間に合うよう、宿題やプリント類を提出させている。	83.9	85.8	83.8	89.3	82.2	79.4	85.7	88.9
	7	学校行事やPTA活動に積極的に参加している。	▲82.5	86.2	82.5	85.3	87.7	87.1	77.2	86.1
体 づ く り	8	地域行事やクリーン活動への参加を促している。	76.0	77.3	75.7	84.0	74.0	71.8	78.6	76.4
	9	親子で話し合っルールを決め、それを守らせている	64.2	60.9	60.3	72.0	68.0	52.5	64.2	58.4
	10	「早寝・早起き・朝ごはん」を習慣付けている。	81.5	83.1	87.9	88.0	78.0	82.1	78.6	79.1

※網掛けは前期比3%以上の上昇

- 【生徒】・全体としては、10「テスト学習」、18「学校生活の充実」で向上が見られます。
- ・特に、10「テスト学習」の項目は、H30年度前期の肯定的回答が77.0であったことを考えると、大きく向上したといえます。
 - ・「体づくり」の3項目すべてにおいて前期から上昇しています。しかし、相変わらず3項目ともに肯定的回答は低く、特に、19「メディア60分以内」は喫緊の課題です。
 - ・全体として下落が大きい項目(▲)が「学力づくり」に集中しています。特に、11「学年別目標時間の家庭学習」では、前期比で10%以上の下落となりました。1,2年生の家庭学習状況が大きく下落しており心配しています。
- 【保護者】・全体としては、2「テスト前後の点検や振り返り」、3「進路の話し合い」、9「親子でメディアルール」で向上がみられます。
- ・特に、2「テスト前後の点検や振り返り」と3「進路の話し合い」は、H30年度前期の肯定的回答が、それぞれ55.3と73.1であったことを考えると、大きく向上したといえます。
 - ・また、9「親子でメディアルール」は、特に2,3年生で大きく向上しています。生徒アンケート項目の19「メディア60分以内」で、2,3年生の肯定的回答が上昇していることに影響しているように感じます。
 - ・全体として下落が大きい項目(▲)は7「学校行事やPTA活動への参加」です。少し残念です。

保護者の皆様からアンケートでいただいた文章記述

- 親は危機感を持ち、家庭での生活態度や家庭学習について積極的にかかわるも、本人が反発するように行わない。最終的には本人が自覚する(本当に必要性を感じる)まで待たなければならないのではないかと感じている。注意をして態度や行動を改められる年齢ではないのだろう。
- 親からは何度も勉強しなさいやゲームのしすぎ、夜中まで起きてゲームをしていることなどを注意していますが、一向に聞く耳を持ってもらえずなので、上のアンケートは、親の言っていることと本人の結果に違いがあります。

学校から 「最終的には本人が自覚するまで待たなければならない」や「何度も注意」とのご意見に、親として子に真摯に向き合う覚悟を感じました。本当にありがとうございます。まずは、保護者や教員、地域の皆さんも含めた「大人たち」が、目の前の子どもたちにしっかりと向き合っていくこと。かといってバツリつきまとう(過干渉)のでなく、適度な距離を保ちつつ、子どもを尊重しながら適度に声を掛け続けること。もちろん、ここぞという時には体を張って想いを伝えること。そして、子どもがどんなに反発しても最後まで見捨てないこと。とても辛く切ない作業ですが、辛さから逃げず、子どもたちに向き合い続けられる大人でありたいと思います。子育てでお困りの際は、遠慮なく学校にご相談ください。これからも、保護者・地域・学校が共に子どもを育て「共育」の実現を目指していきたいと切に願います。

- 目標を決める事が大事なので、何事も目標を決め、目標に向かって頑張れる子になってほしいです。
- 10の項目は(早寝)早起きが課題です。本来は、6時半までの起床が目標ですが、6時40分~6時45分までに起床することとし、朝のゴミだしを手伝わせるように促しています。特にこの秋・冬シーズンは日の出時刻が遅いのですが、太陽の光を浴びて目覚める事は良いことだと感じます。自立させる為にも力を入れたい項目です。

学校から 仕事をもたず、学校にも行かず、職業トレーニングも受けていない日本の若者(15歳~39歳)、いわゆる「ニート」が約70万人いるとの統計があります。近年、将来の夢や目標をもたず、毎日をなんとなく生活する若者の増加が懸念されています。子どもの社会的自立の観点からも、小さな頃から子どもに夢や目標を意識させることや、社会や家庭における自分の存在感(役に立てる喜び)を感じさせることが重要です。

一方、近年は経済や政治の先行が不透明で、将来を予測することが困難な時代といえます。子どもにとって、夢や目標をもちにくい社会かもしれません。子どもに夢や目標を考えさせると同時に、その実現に向けてどのような努力や工夫が必要か、失敗や挫折をしたときにどう目標を修正していけばよいか、中学校でも生徒に話をしていきます。是非、ご家庭でもお子さんと一緒に考えていただくと嬉しいです。